

新水稻奨励品種「つや姫」の特性

～白未熟粒の少ない極早生品種～

1. はじめに

近年、夏季が高温で推移することにより白未熟粒の発生が助長され、玄米外観品質の低下が問題となっている。和歌山県の水稲栽培面積の約半分を占める極早生品種「キヌヒカリ」で白未熟粒の発生が多発しており、検査等級を下げる主な原因となっている。そこで、夏季の高温による白未熟粒の発生が少ない、外観品質に優れた品種として、「つや姫」が2017年2月24日に和歌山県水稻奨励品種に採用された。

2. 「つや姫」の来歴

「つや姫」は山形県立農業試験場庄内支場（現山形県農業総合研究センター水田農業試験場）において、良質・良食味米の育成を育種目標に選抜・育成され、2009年2月に「つや姫」と命名された。和歌山県では2008年より奨励品種決定調査において試験を開始し、特性を把握してきた。

3. 「つや姫」の特性

「キヌヒカリ」と比べ稈長、穂長は同程度で穂数はやや多い。出穂期は2日程度、成熟期は3日程度遅く、本県では極早生に属する。草型は中間型で、稈の太さは中、耐倒伏性はやや強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型はPii、Pikを持つと推定され、葉いもち圃場抵抗性は強、穂いもち圃場抵抗性は不明である。白葉枯病抵抗性はやや強、縞葉枯病抵抗性は罹病性である。穂発芽性は中である（表1）。

表1 「つや姫」の特性表

品種名	両親の組み合わせ	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	草型	脱粒性	穂発芽性	耐病性				耐倒伏性	玄米収量 (kg/a)	玄米千粒重 (g)	品質	採用年次
										穂いもち	葉いもち	縞葉枯	白葉枯					
つや姫	山形70号×東北164号	8.12	9.19	79.8	18.5	319	中 間	難	中	不明	強	罹病性	やや強	やや強	59.9	22.2	上 中	平成 29年
キヌヒカリ	(収2800/北陸100号)F1 ×北陸96号	8.10	9.16	81.0	18.4	293	中 間	難	やや易	やや弱	やや弱	弱	中	やや強	55.1	22.4	上 下	平成 2年

注) データは農業試験場の奨励品種決定調査(2010～2016年)の平均値。移植期は6月16日。

「キヌヒカリ」と比べ収量は安定して高く（図1）、白未熟粒の発生が少なく（表2）、整粒率が高い（図2）。

表2 「つや姫」の白未熟粒発生程度

品種名	白未熟粒(0-5)				
	心白	乳白	基部未熟	背白	腹白
つや姫	1.8	0.7	0.4	0.3	0.1
キヌヒカリ	3.0	0.6	0.5	0.6	0.3

注) データは奨励品種決定調査(2012～2016年)の平均値

心白、乳白、基部未熟、背白、腹白の発生程度は、0(無)～5(甚)の6段階

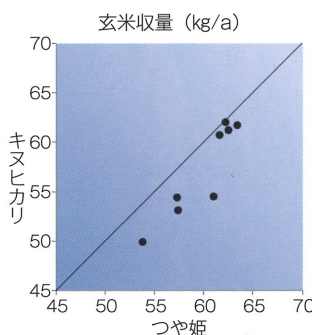


図1 「つや姫」と「キヌヒカリ」の収量比較

注) 2008～2015年の年ごとの収量

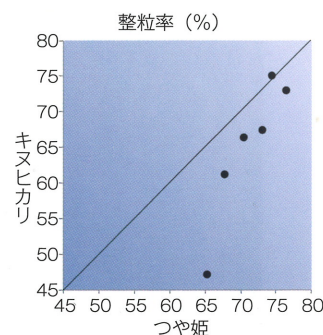


図2 「つや姫」と「キヌヒカリ」の整粒率の比較

注) 2011～2016年の年ごとの整粒率

4. 栽培上の注意点

「つや姫」の適地は県内全域の平坦地と考えられる。栽培要件として、特別栽培または有機栽培で栽培することとされている。また、登熟期間が高温となると白未熟粒の発生が増えるため、極端な早植は避けることが望ましい。

(栽培部 宮井良介)